

エネルギー学習フォーラム 会場アンケート結果の概要

1. アンケート実施の状況

フォーラム参加者	201名
アンケート回答者	73名
回答率	36.3%

2. アンケートでの主な意見等

(1) フォーラムに関する意見・感想

- ・「学習とは、いかに生きるかの知恵になるもの」という言葉などをはじめ、各パネラーからの提示の数々は色々と自分の中で考えさせられたり、新しい発見となることがいくつかあり、参考となるものだった。（男性、20代、教員）
- ・原子力については賛否両論だが、確かにそのものの技術はすばらしいものだという事は共感できる。（男性、30代、教員）
- ・来年度から始まる新学習指導要領で新設される総合的な学習の時間の取り組みに対してヒントを数多く得ることができ、大変勉強になった。
（男性、40代、教員）
- ・エネルギーと自分がどう関わっているか、これからどう関わっていけばよいかを学ばせることが大切。（男性、50代、教員）
- ・エネルギー教育について色々な立場の方からの意見・見解を知ることが出来た。
（女性、20代、学生）
- ・エネルギー学習は難しいという固定観念がある。身近な生活からの切り口が大切であると感じた。（男性、40代、地方公務員）
- ・少し難しい内容の話から身近な話題まで、いろいろな立場の方からたくさんの意見が聞けた。子供達への教育は、やはり分かり易さが一番大切だと思う。
（女性、20代、会社員）
- ・学校だけでなく、家庭も含めてまず大人がエネルギーに関心を持つことが重要であり、子供はその大人の姿を見て学んでいくものだと思う。
（男性、30代、会社員）
- ・時代に流されることなく原理原則を教えるという点についてまさにその通りだと思う。（男性、30代、会社員）
- ・エネルギー教育とは何ぞやという部分が見えてこない。エネルギーそのものの教育（理教的教育）、エネルギーの現在の日本の状況（需要と供給）やあるべき姿等取り巻く環境に対する教育（社会的教育）の二面性があると思う。国・県が議論している教育とは後者の方と考える。今回のフォーラムは若干前者に偏ったものでは？（男性、30代、無記入）

- ・子供達への教育について、興味を持たなければ難しいというが、興味をもたせてあげられるようにする人を増やした方がいいと思う。(女性、20代)
- ・現在の教育は、基礎を飛び越して深いところのみを教えられていると思う。実際「エネルギー」という単語一つをとっても、いったい何人の子供が正確に正しい意味を知識として持っているのかと疑問に思った。(女性、20代)

(2) 意識調査結果に対する意見・感想

- ・「エネルギー」という言葉の捉え方が各個人で異なる危険がある。総合的な学習の時間の中の一つとして原子発電エネルギーは面白い素材。原子力発電エネルギーを総合的な学習の時間の中で扱うようになった時、県内の原子力発電所の支援は欠かせないと思う。(男性、20代、教員)
- ・エネルギーについての教育は絶対に必要である。現実の中学校は、時間に追われすぎ。大切なことを行うには、指導者にも生徒にも、それなりに考える時間が必要と考える。(男性、30代、教員)
- ・何でも学校教育に依存する考えには問題があるが、子どもたちの将来のことを考えると、生活に密着したエネルギー・環境問題を取りあげることも必要であると思う。(男性、40代、教員)
- ・県民の意識はエネルギーについて関心が高いし、エネルギー学習の推進を求めていることがわかった。(男性、50代、教員)
- ・エネルギー問題、環境問題の現状と課題については教育なり学習は必要であり、常に問題意識を持つことが必要と思う。(男性、50代、公務員)
- ・児童・生徒のエネルギー体験学習のため地域にある水力・火力原子力発電所などの施設見学をどんどん行えばよいと思う。(男性、40代、地方公務員)
- ・福井県に住む人たちにとって原子力を含むエネルギー問題や環境問題に対する関心の高さが伺える。(男性、40代、地方公務員)
- ・原電立地県としてエネルギー問題の学習にもっと力を入れるべきである。
(男性、40代、地方公務員)
- ・総合学習とエネルギー問題とを結びつけるのは難しいと思う。教科の社会科や理科での基礎学習の充実も併せて考える必要があると思う。
(男性、40代、公務員)
- ・エネルギーについてあまり考えてみたこともなかったが、生きる上での必要性について、自然の力だけでなく人工的エネルギーと環境について、もっと子供達に知ってもらうことが大切になってきているのかもしれない。今の子は今の生活が当たり前になっているが、一つ一つ考え直してゆくことが必要だろう。
(女性、40代、PTA)
- ・結果は「エネルギー教育賛成」と見受けられるが受験勉強の時間を割いても賛成ということになるのだろうか？(男性、50代、会社員)
- ・これだけ多くの人々がエネルギー問題についての教育が必要と考えているのは以外だった。(男性、30代、会社員)

- ・「総合的な学習の時間」で原子力等のエネルギー教育を取り入れた方がよいとの意見が思った以上に多く、少し驚いています。電気、エネルギーは私たちの生活になくてはならないので、小さいうちから現実を正しく教えるべきだと思う。(男性、30代、会社員)
- ・電力移出県としてエネルギー問題について教育の必要性の数値(そう思うの数値)がもう少し高いと思った。(男性、40代、会社員)
- ・民間も積極的に参加する必要がある。子供を持つ親の責任放棄が目立つのでは。(男性、60代、会社員)
- ・原子力を含むエネルギー問題について学びたいと考えている意見が多いように思えるが、学べる機会が非常に少なく、興味をそそる物も少ない。特に学校の先生は原子力反対が多いのでは、公平な考えで教育していない。(男性、30代、会社員)
- ・小中学校に少しでもエネルギーの学習を行うことで子供の意識も違おうだろうし、絶対必要だと思う。興味がない、知らない、無関心で済ますことは、これからの教育に悪影響だと思う。(女性、30代、会社員)
- ・机上の学習のみならず県内に実際に立地している発電所を自分の目で見て学習・判断の材料にしたら良い。(男性、40代、会社員)
- ・国家の将来を担う食糧問題、エネルギー問題は国民の身近な問題として国民一人一人が自分の意見を持てるようしっかり勉強していくべき。(男性、40代、会社員)
- ・一方的に教師が語るのではなく、目で見たり自分たちで調べたりという時間を大切にしていってほしいと思う。(女性、20代、会社員)
- ・学校でのエネルギー教育は大変重要であるとともに、家庭での身近なところのエネルギーに関する話し合いはとても必要と思う。(女性、40代)

(3) 福井県におけるエネルギー教育についての意見・要望

- ・子どもたちがエネルギーへ目を向けるためのきっかけづくりを用意することが先ずエネルギー教育への第一歩。子どもだけでなく、自分も含めた大人がもっとエネルギーの知識を身につけていかねばならないと痛感する。(男性、20代、教員)
- ・自分も福井県人の一人として、教員として、先ずもっと知識をしっかりと理解しどのように授業として成り立たすことが効率的なのか考えていきたい。(男性、30代、教員)
- ・原発立地圏の福井県としては、将来のエネルギー・環境問題に対する正しい知識を身につけることが重要と考える。(男性、40代、教員)
- ・児童・生徒向けの分かりやすいパンフレットがあれば教育の現場では社会科や学活の時間等で指導でき、正しい知識を伝達し正しい理解をさせることが出来ると思う。特に次代を生きていく児童・生徒にとっては、絶対に必要な教育だと感じている。(男性、40代、教員)

- ・何でも総合的な学習にと言われても困る。エネルギー教育は環境教育というエリアでなければならないと思う。教科の中でできるようにして行くと良いと思う。(男性、50代、教員)
- ・教える際に何を教えるか基礎・基本をしっかりおさえて置くことが大事だと思った。そしてそれを子どもたちにどのようにどこまで教えるか考える必要があると思う。(女性、20代、学生)
- ・中学生くらいになると選択したエネルギー教育を学ぶことも必要。
(男性、50代、公務員)
- ・福井県は、原子力立地県ではあるが、あまりに強調するよりも「エネルギーの大切さ」「一人一人の省エネルギー大切さ」を教えることが重要。エネルギーの大切さが理解されれば原子力の理解へとつながる。(男性、40代、公務員)
- ・教育関係者も含めた討議が必要であり、その成果は学校で実践される仕組みづくりが望まれる。(男性、50代、会社員)
- ・子供が興味を持つような科学実験教室等を取り入れ、科学に触れる機会を増やしていったらよいのではないか。福井県は原子力発電所が多く、電気を作ることだけにこれだけ貢献している県民がエネルギーについて無知では。電気をたくさん作っているという誇りを持ってもらいたい。(女性、20代、会社員)
- ・学校のみでなく家庭、地域社会全体でのトータルな教育が必要。そのためには、大人のエネルギーに関する理解が必要だと思う。(男性、40代、会社員)
- ・原子力を推進する等国の政策方針に沿ったような教育でなく、正の面負の面についてすべからく教育。個々の判断でどうしていくべきかを考えられる人間を育てるべきである。(男性、30代、会社員)
- ・原子力中心に偏ることのない配慮と地域の特性をバランスよく取り入れるようにすべき。(男性、60代、会社員)
- ・子供が興味を持つような教育が必要。基本を教えることは大事だが興味を引かれることが必要。家庭教育も大事。(男性、40代、会社員)
- ・県庁内3課(生活企画課、地域政策室、原子力安全対策課)共同の教育プロジェクトがあってもいいような気がする。(男性、50代、会社員)
- ・生徒の方への教育も重要だが、教師の方への情報提供を行い、正しい知識を付与していくことも大事であると考え。(男性、40代、会社員)
- ・私達はエネアドバイザー養成を受け、先日小中学校向けの紙芝居を作成しました。学校へ出かけてともに学習したいと思う。(女性、70代)
- ・「福井県における」という前置きでは、原子力(プルサーマル、高速増殖炉)に対する是非の意見形成ができるレベルへという点は避けて通れない。どちらかに偏ったものではない形で情報提供、教育が行われることを望む。
(男性、30代)

以上